

平成 21 年 3 月期 第 1 四半期決算についての補足説明

当社（東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号、資本金 364 億円、社長：河野 正樹）の平成 21 年 3 月期 第 1 四半期の連結決算は、売上高 1,141 億円、営業利益 119 億円、経常利益 126 億円、四半期純利益 75 億円となりました。また、連結総資産は 3,804 億円、連結純資産は 1,563 億円、連結自己資本比率は 39.4%となりました。

連結損益

単位：億円

| | A | B | 増減 (B - A) | |
|------|--------------|--------------|------------|--------|
| | 2007 年度第 1 Q | 2008 年度第 1 Q | 金額 | 率 |
| 売上高 | 1,192 | 1,141 | △51 | △4.3% |
| 営業利益 | 175 | 119 | △56 | △32.1% |
| 経常利益 | 178 | 126 | △53 | △29.6% |
| 当期利益 | 98 | 75 | △22 | △23.0% |

原油価格や原材料価格高騰の影響などにより外部環境が悪化するなか、前年同期比で環境・リサイクル部門、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門それぞれで売上を伸ばしました。一方、製錬部門で亜鉛、インジウムの価格が下落したこと、また、リサイクル原料対応への新プロセス移行期間に伴い、金、銀の販売量が減少したことにより売上が減少し、全体で 51 億円減収（△4.3%）の 1,141 億円となりました。

経常利益は、外部環境の悪化に加え、棚卸資産の在庫評価損 6 億円、減価償却資産の税制改正による影響 6 億円などの利益減少要因がありました。

以上のような要因がありましたが、電子材料部門、金属加工部門、熱処理部門で増益となり、環境リサイクル部門は前年同期並みの利益を計上しました。

一方、製錬部門は原料鉱石の調達条件が悪化したのに加え、亜鉛、インジウム価格下落の影響により大幅な減益となり、全体では 56 億円減益（△32.1%）の 119 億円となりました。

第 1 四半期純利益は 22 億円減益（△23.0%）の 75 億円となりました。

財務面では、前年度末との比較で総資産が 125 億円増加し 3,804 億円となりました。流動資産で 62 億円の増加、固定資産で 63 億円増加しました。

流動資産の増加は、受取手形及び売掛金の減少が 39 億円ありましたが、製錬部門で一時的な原料鉱石の到着により原材料が増加したほか、土壌浄化事業、工業炉での工事仕掛の増加により棚卸資産が 45 億円増加したことによるものです。また、固定資産の増加は、有形固定資産が 15 億円増加したほか、株式の時価評価により投資有価証券が 62 億円増加したことによるものです。

なお、有利子負債は、法人税等の納付、配当金の支払いなどの一時的な資金需要もあり、前年度末から 213 億円増加し、1,422 億円の残高となりました。

1. セグメント別

製錬部門

製錬部門では、好調な自動車部品向けに銅、亜鉛及び白金族が販売量を伸ばしましたが、リサイクル原料対応への新プロセス移行期間に伴い、金、銀の販売量が減少しました。

金、銀の販売減に加え、亜鉛、インジウムの価格が下落した影響により売上高は 139 億円減収 ($\Delta 18.6\%$) の 608 億円となりました。

営業利益は、白金族は価格の上昇もあり増益となりましたが、原料鉱石の調達条件の悪化に加え、亜鉛、インジウムの価格下落により利益が減少し、57 億円減益 ($\Delta 46.9\%$) の 64 億円となりました。経常利益も同様に、57 億円減益 ($\Delta 45.7\%$) の 67 億円となりました。

環境・リサイクル部門

環境・リサイクル部門では、土壌浄化事業で大型案件の減少、工事着工遅れにより売上が減少しましたが、一方で、廃棄物処理が堅調に推移し、また、リサイクル部門でリサイクル原料の取扱量の増加や家電リサイクルの回収率アップによる有価物の売上増加などにより、全体で売上高は 13 億円増収 (+6.5%) の 210 億円となりました。

営業利益は、リサイクル部門で増益となりましたが、土壌浄化事業での減益をカバーしきれず 2 億円減益 ($\Delta 11.3\%$) の 16 億円となりました。

経常利益は、持分法会社の業績回復などにより、ほぼ前年同期並みの 17 億円となりました。

電子材料部門

電子材料部門では、携帯電話のモデルチェンジにより赤外通信用 LED の需要が減少し売上が減りましたが、一方で、PDP 用途向け銀粉、鉄粉が販売量を伸ばし、また、磁気記録用メタル粉やコピー機用キャリア粉も堅調に推移したことにより、全体で売上高は 25 億円増収 (+16.4%) の 177 億円となりました。

営業利益は、半導体部門で減益となりましたが、銀粉、鉄粉などの販売量が増加したことにより、1 億円増益 (+8%) の 19 億円となりました。

経常利益は、輸出売上の為替差益の計上などにより、2 億円増益 (+11.5%) の 19 億円となりました。

金属加工部門

金属加工部門では、貴金属めっきは新規受注の獲得遅れにより売上が伸び悩みましたが、自動車用途が引続き好調で、銅合金板条、錫めっき品が販売を伸ばしました。また、前年第 3 四半期から連結に取り込んだ DOWA メタニクス㈱の影響もあり、売上高は 54 億円増収 (+27.5%) の 252 億円となりました。

営業利益は、伸銅品（銅合金板条、錫めっき品）は税制改正による減価償却費の負担増を吸収したうえで増益となりましたが、貴金属めっきが減益となり、また、セラミックス基板も設備増強に伴う一時的なコスト増により減益となり、全体では 1 億円減益 ($\Delta 6.8\%$) の 11 億円となりました。

経常利益では、輸出売上の為替差益の計上などにより、3 億円増益 (+25.4%) の 14 億円となりました。

熱処理部門

熱処理部門では、国内及び北米での自動二輪車の停滞が続いていますが、アジア向けにギアなど機械部品の表面処理加工の受託が堅調に推移しました。また、工業炉は、自動車メーカーによる海外での生産能力増強の傾向が続く中、炉の販売とメンテナンス工事ともに販売を伸ばし、売上高は 13 億円増収 (+23.1%) の 69 億円となりました。

営業利益は、熱処理加工での設備稼働率の向上（外製の内製化など）や、工業炉での現地工事の原価

低減など、徹底したコスト削減に取り組んだ結果、5億円増益（+118.1%）の9億円となりました。
 経常利益も同様に5億円増益（+117.3%）の9億円となりました。

セグメント別 損益状況

単位：億円

| | 2007年度第1Q | | | 2008年度第1Q | | | 増 減 | | |
|----------|-----------|-------|-------|-----------|-------|-------|--------|-------|-------|
| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 |
| 製 錬 | 747.1 | 121.5 | 123.9 | 608.2 | 64.5 | 67.3 | △138.9 | △57.0 | △56.6 |
| 環境・リサイクル | 197.4 | 18.4 | 17.8 | 210.2 | 16.3 | 17.2 | 12.8 | △2.1 | △0.7 |
| 電 子 材 料 | 152.1 | 17.3 | 17.4 | 177.0 | 18.6 | 19.4 | 24.9 | 1.4 | 2.0 |
| 金 属 加 工 | 197.5 | 11.6 | 10.9 | 251.8 | 10.8 | 13.6 | 54.3 | △0.8 | 2.8 |
| 熱 処 理 | 56.0 | 4.2 | 4.3 | 69.0 | 9.1 | 9.3 | 13.0 | 4.9 | 5.0 |
| 消 去 ほ か | △158.1 | 2.4 | 3.9 | △175.1 | △0.3 | △1.2 | △17.0 | △2.7 | △5.1 |
| 合 計 | 1,192.0 | 175.3 | 178.2 | 1,141.1 | 119.0 | 125.5 | △50.9 | △56.3 | △52.7 |

2. 第2四半期（累計）の進捗状況

当第1四半期につきましては、当初想定した主要メタル価格及び為替相場に対し、亜鉛価格は下落傾向が続いていますが、その他のメタル価格は想定を上回る水準で推移しており、また、為替も円安傾向を続けたことから、製錬部門を中心に全てのセグメントで当初計画を若干上回る業績となりました。

第2四半期では、製錬部門での定期修繕による休転の影響があり、第1四半期に比べれば収益は減少しますが、原油価格、原材料価格の高騰の影響で外部環境が悪化する中、全セグメントで概ね計画どおり進捗していることから、第2四半期（累計）の当初予想は達成できる見込みです。

また、通期業績予想についても現時点での変更はありません。

連結損益の進捗状況

単位：億円

| | 第2Q（累計） 予想 | 第1Q実績 | 達成率 |
|---------|---------------|----------|-----|
| 売 上 高 | 2, 2 5 0 | 1, 1 4 1 | 51% |
| 営 業 利 益 | 1 8 0 | 1 1 9 | 66% |
| 経 常 利 益 | 1 8 0 | 1 2 6 | 70% |
| 当 期 利 益 | 1 0 0 | 7 5 | 75% |

セグメント別 損益の進捗状況

単位：億円

| | 第2Q（累計）予想 | | | 第1Q実績 | | |
|----------|-----------|------|------|---------|-------|-------|
| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 |
| 製 錬 | 1,150 | 70 | 74 | 608.2 | 64.5 | 67.3 |
| 環境・リサイクル | 430 | 35 | 35 | 210.2 | 16.3 | 17.2 |
| 電 子 材 料 | 350 | 30 | 30 | 177.0 | 18.6 | 19.4 |
| 金 属 加 工 | 520 | 25 | 25 | 251.8 | 10.8 | 13.6 |
| 熱 処 理 | 140 | 17 | 16 | 69.0 | 9.1 | 9.3 |
| 消 去 ほ か | △340 | 3 | 0 | △175.1 | △0.3 | △1.2 |
| 合 計 | 2,250 | 180 | 180 | 1,141.1 | 119.0 | 125.5 |

セグメント別に見てまいりますと、製錬部門では、亜鉛価格は下落傾向が続いているものの、その他のメタル価格、為替相場は予想を上回る水準で推移しており、第2四半期（累計）予想は達成できる見込みです。なお、第1四半期に比べ第2四半期の収益が減少するのは、定期修繕による休転を予定しているためです。現在、リサイクル原料対応への新プロセス移行を実施していますが、この休転時に技術改善を進め操業度アップと安定操業を図ってまいります。

環境・リサイクル部門では、土壌浄化事業の大型案件の減少、着工遅れによる収益の下ぶれが予想されますが、廃棄物処理が堅調に推移していること、リサイクル部門で予想を上回る進捗状況となっていることから当初予想を達成できる見込みです。

そのほか、電子材料部門での半導体事業（LED）、金属加工部門でのめっき事業に不安要素がありますが、PDP用銀粉、メタル粉、鉄粉等、また、銅合金板条、錫めっき品が予想を上回る進捗状況となっていることから、全てのセグメントで第2四半期（累計）予想は達成できる見込みです。

事業環境としては、原油価格や原材料価格の高騰、また、米国経済の減速並びに中国経済が不透明であることなど厳しい状況にあります。

このような状況の中、中期計画「事業構造改革Ⅲ～Jump up to the New Stage～」の最終年度として、積極的かつ大胆な施策への取り組みを行なうとともに、これまで以上に徹底したコスト削減による企業体質の強化を進め、業績予想の達成に向けて全力を尽くしていく所存であります。

《連絡先》 DOWA ホールディングス 経理・財務部門 03-6847-1150 成田、菅原
 " 企画・広報部門 03-6847-1106 西村、鎌倉

以 上